奔流

題字揮毫・梅原猛

≪もくじ≫
■特集：生存の基盤を蝕む「カネミ油症」はまだおわっていない ～人類へ警鐘を鳴らす化学物質食品汚染の恐怖～
2頁・すべての油症被害者の全面救済が急務…… 藤原　寿和
4頁・被害者からの訴え ……宿輪 敏子・岩村 定子・下田 順子
6頁・カネミ油症の医学的問題＝医師からの報告 ……藤野　糺

≪第26号≫
■発行
千曲川・信濃川復権の会
〒184-0012
東京都小金井市中町2-5-13
FAX・TEL　042-381-7770
■発行人・市川　久芳（共同代表）
■編集人・矢間秀次郎（正 会 員）
■〒振替・00120-0-710488

大河の一滴（26）

女性の「生殖の健康と権利」を大きく侵害

カネミ油症事件から何を学ぶべきか

佐藤　禮子（カネミ油症被害者支援センター共同代表）

子育てが一段落した30数年前、地元の豊島清掃工場建設の反対運動を機に、ダイオキシンなど有害化学物質を体内に摂取すると、雌は胎盤、母乳を介して次世代に汚染物質を渡し自らが清まるという反倫理的行為をする存在を知り、男女の社会的ジェンダーから次世代のいのちをつなぐエコロジーに関心が移りました。ちょうどこの頃に世界で初めてダイオキシンを食したことで健康被害を発症したカネミ油症事件と出会いました。

1968年、今から51年前に起きたカネミ油症事件の女性支援者として20年間、結婚、出産、家事、介護といった平凡な日々の生活の中に男性には言えなかった理不尽な扱いや悲しみ、憤り、不安に溢れた女性被害者の実態と、産んだ子ども、孫たちにまで及ぶ不安の現実を知り、女性の「生殖の健康と権利」が根底から大きく侵害されていると強い憤りと悲しみを覚え、80歳になりました。

現代人は便利さのために、後始末もろくに考えずに次々と化学物質を開発し製造し続けています。カネミ油症の原因物質であるPCBを製造したカネカの製造物責任は全く問われていません。PCBが熱変成して新たに生成したダイオキシンの恐ろしさを身をもって教えてくれた被害者のお陰で、事件後ようやく世界中は製造販売を中止しましたが…。しかし、一度体内に取り込まれた猛毒物質は世代を超えて被害をもたらしているのです。

私たちは事件からの次のことを学ばなければなりません。

①健やかな「いのち」の持続可能な社会のために、各自が限られた人生の中で物の豊かさ利便性より、自然界の中に生かされていることを忘れず、謙虚に研究開発し、教育に関わり、足るを知る生き方、幸せを実感し努力すること。

②開発・製造にかかわる事業者は、各自の身体感覚・五感を大切にする。特に男性陣は子育て、家事、介護など暮らし「いのち」の原点を実感できる日々を送る努力をすること。使う側や消費する側も生活者として共存共栄に関わること。

③食の安全・安心が健やかな「いのち」次世代の幸せに大きく関わっていることを実感し、自らの生活に活かす努力をすること。政治は暮らしや男女平等は当然だが、男性と女性は同じではないので、双方の民主主義で成り立つパリテ民主主義というフランスの思想は当然であること。セクハラは男性社会の力、パワーハラに抑え込まれている。違いを認め、共生社会に向けた女性の政治参画、社会参加。④女性の「生殖の健康と権利」は、生まれてくる子どもの人権の幸せの土台になる。結婚・親になる責任に気づき、両性を意識した幸せな関係性が保てる生き方を探求すること。高齢社会が進む日本の今、理性的、理論的生き方が出来なくなった人たちとも、動物的愛を大切にする地域社会の構築、修行に努めること。

世代を超えた被害者の皆さん！　人権侵害を勇気を出して訴え続け、出来れば後世のためにも自らの訴えを何らかの形にして残して下さい。カネミ油症事件に関わり、多くの事を学ばせて下さった被害者とこの年までご一緒出来るご縁に感謝です。